



ギニアビサウ共和国

Republic of Guinea-Bissau

2007年10月現在



一般事情

< 西アフリカ、旧ポルトガル領の国 >

- 1.面積 36,125平方キロメートル(九州とほぼ同じ)
- 2.人口 170万人(2007年)
- 3.首都 ビサウ(Bissau)
- 4.民族 バランタ、フラ、マンジャカ、マンディンカ、パベウ等
- 5.言語 ポルトガル語(公用語)
- 6.宗教 原始宗教、イスラム教、キリスト教
- 8.通貨 CFAフラン
為替レート 655.957CFAフラン = 1ユーロ(固定レート)
補助通貨単位 100サンチーム = CENTIME/S

9.査証(ビザ)

10.在留邦人数 2人(2007年10月現在) コンセント・タイプ

11.在日当該国人数 3人(2006年12月末)

12.電源 - V - Hz

13.国際電話 国番号 245 国際通話コード -

14.シガレット 小売価格 - US\$ (20本当り)

税率 - %

製造数量 - (百万本/年)

シガレットメーカー **No Cigarette Manufacturers in this Country**

15.略史

| 年月 | 略史 |
|----------|------------------------------------|
| 15世紀 | ポルトガル植民地 |
| 1973年9月 | ポルトガルより独立宣言 |
| 1980年11月 | ヴィエイラ首相、クーデターで政権奪取。革命評議会設置 |
| 1984年5月 | 革命評議会を廃止、 国家評議会を設置しヴィエイラ氏が議長に就任 |
| 1985年11月 | コレイラ国家評議会副議長によるクーデター未遂 |
| 1991年5月 | 憲法改正(複数政党制への移行) |
| 1994年8月 | 大統領選挙(ヴィエイラ大統領当選) |
| 1998年6月 | 一部軍人(マネ前参謀長ら)による反乱発生 |
| 1999年5月 | ヴィエイラ大統領亡命、サーニャ国民議会議長が暫定国家元首に就任 |
| 1999年11月 | 大統領選挙(第1回投票)、国民議会選挙 |
| 2000年1月 | 大統領選挙(第2回投票)、(クンバ・ヤラ候補当選) |
| 2003年9月 | クーデター発生、ヤラ大統領辞任 |
| 2003年10月 | 暫定政権発足(ロサ臨時大統領就任) |
| 2004年3月 | 国民議会選挙 |
| 2005年6月 | 大統領選挙(第1回投票) |
| 2005年7月 | 大統領選挙(第2回投票) |
| 2005年10月 | ヴィエイラ氏が大統領に就任 |

16.在外大使館・領事館 なし

17.駐日大使館・領事館

ギニアビサウ共和国大使館 (兼轄、中国常駐)
Embassy of the Republic of Guinea-Bissau in Japan
電話: (86-10)6532-7106

政治体制・内政

1.政体 共和制

2.元首 ジョアオ・ベルナルド・ヴィエイラ大統領(Joao Bernardo VIEIRA)

3.議会 国民議会、102名

4.暫定政府

(1)首相 マルティニョ・ンダファ・カピ(Martinho Ndafo KABI)

(2)外相 マリア・ダ・コンセイソン・ノーブレ・カブラル(Maria da Conceicao Nobre CABRAL)

5.内政

1998年から2000年にかけて一部軍人による騒擾が頻発。

2000年の大統領選挙で選出されたヤラ大統領も、2003年9月、軍部のクーデターを受け、辞任に追い込まれた。

その後、暫定国民会議が組織された結果、10月には暫定政権が発足。

2004年3月末に国民議会選挙が、2005年6、7月に大統領選挙が実施され、10月にヴィエイラ大統領が就任した。11月にゴメス内閣が発足。

その後、ヤラ前大統領派の閣僚2名が更送されたことを受け、2007年3月野党が提出した内閣不信任決議案が可決され、ゴメス内閣は総辞職に追い込まれた結果、4月にカピ内閣が発足。

ヴィエイラ大統領の下で、内戦により疲弊した国家立て直しがはかられる一方、依然として内政の不安定は続いている。

外交・国防

1. 外交基本方針

独立後しばらくは親東側路線であったが、ヴィエイラ政権以降経済再建重視の政策をとり完全な欧米先進国寄り路線に変更。

基本的な外交方針は非同盟主義、近隣諸国との協調。

1990年から国交を結んでいた台湾と1998年4月に断交、中国と国交を回復した。

ヴィエイラ政権は国際社会との協調政策をとることを標榜している。

2005年7月にアフリカ連合(AU)の代表権を回復。

2006年7月、ポルトガル語諸国共同体サミットを開催。

2. 軍事力(ミリタリー・バランス2007年版)

(1) 予算 1,400万ドル(2006年)

(2) 兵役 選抜徴兵制

(3) 兵力 9,250人(陸軍:6,800人、海軍:350人、空軍:100人、準軍隊:2,000人)

< 構造調整を推進中 >

経済

1. 主要産業

農林水産業(落花生、カシューナッツ、エビ、いか)

2. GDP

3.06億ドル(2006年、世銀)

3. 一人当たりGNP

190ドル(2006年、世銀)

4. 経済成長率

4.2%(2006年、世銀)

5. 物価上昇率

3.8%(2006年、世銀)

6. 失業率

N/A

7. 総貿易額

(1) 輸出 7,480万ドル(2006年、EIU)

(2) 輸入 1億2,730万ドル(2006年、EIU)

8. 主要貿易品目

(1) 輸出 カシューナッツ、魚、エビ

(2) 輸入 石油製品、食料品、消費財

9. 主要貿易相手国

(1) 輸出 インド、ナイジェリア、セネガル、ポルトガル、オランダ

(2) 輸入 セネガル、イタリア、ポルトガル、オランダ、フランス

10. 通貨

CFAフラン

11. 為替レート

655.957CFAフラン = 1ユーロ(固定レート)

12. 対外債務残高

7億6,500万ドル(2004年、EIU)

13. 経済概況

主要産業は農林水産業であり、経済構造は脆弱。

国民の6割以上が絶対的貧困にある世界最貧国の一つ。

2006年には輸出の85%以上を占めるカシューナッツ政策のつまずきにより税収入が大幅に減少した。

また、財政難のため公務員の給与支払いは滞っており、学校や病院でストが頻発している。

経済協力

< 食糧・農業分野における無償資金協力中心 >

1. 我が国の援助実績(単位:億円)

(1) 有償資金協力(2005年度まで、E/N(交換公文)ベース)0

(2) 無償資金協力(2005年度まで、E/Nベース)108.02

(3) 技術協力実績(2005年度まで、JICAベース)5.09

2. 主要援助国(2004年、単位:百万ドル)

(1) ポルトガル(12.1) (2) フランス(5.4) (3) オランダ(3.3)

(4) スウェーデン(2.4) (5) スペイン(1.5)

二国間関係

1. 政治関係

我が方公館: 在セネガル大使館(兼轄)

先方公館: 在北京大使館が我が国を兼轄

2. 経済関係

(1) 対日貿易

(イ) 貿易額(2006年)

対日輸出 385万円

対日輸入 2,519万円

(ロ) 主要品目

輸出 魚(冷凍)

輸入 乗用車、モーターサイクル

(2) 我が国からの直接投資 なし

3. 文化関係

特になし

4. 在留邦人数

2人(2007年10月現在)

5. 在日当該国人数

3人(2006年12月末)

6. 要人往来

(1) 往

なし

(2)来

| 年月 | 要人名 |
|------------|--|
| 1978年3月～4月 | マルティンス教育大臣 |
| 1989年2月 | ヴィエイラ大統領(大喪の礼) |
| 1990年10月 | ヴィエイラ大統領(立ち寄り) |
| 1990年11月 | カブラル第二副大統領(即位の礼) |
| 1991年7月 | コレイア農業大臣 |
| 1993年10月 | ディアス計画大臣(アフリカ開発会議) |
| 1997年11月 | ダ・コスタ・ソレラス・セメド教育大臣 |
| 1998年2月 | メンデス国庫国務長官(オリンピック関連民間招待) |
| 1998年10月 | サーニャ経済・大蔵大臣、ダ・シルバ外務・協力大臣 (第2回アフリカ開発会議) |
| 2000年6月 | ダ・コスタ内閣官房長官兼報道・議会担当大臣、 ンチャマ首相、ペレイラ企画・地方開発担当大臣、 バライ国際協力・地方統合担当大臣(小淵前首相葬儀) |
| 2007年2月 | マネ漁業・海洋経済大臣 |

7.二国間条約・取極
なし